10	ワン・シング	ゲアリー・ケラー ジェイ・パパザン	ソフトバンククリエイティブ	1428円

変わった町おこし小説

「ターミナルタウン」三崎亜記著

ターミナルタウン
三崎亜記

かつては無数の電車が止まり、ターミナルタウンとして栄えていた静原町。しかし乗り換え路線の廃止により、ほぼ全ての電車がこの町を通過するようになった。

三崎亜記の新作長編は、一風変わった町おこし小説だ。鉄道とともに発達してきた町が鉄道を失い、衰退しようとしている。

しかし町民たちには「ターミナルタウンの誇り」が残り、鉄道の運行に合わせた特殊な時計を使っていたり、町の名物が「鉄道もなか」であったりする。

鉄道をとったら何も残らなかった町が再生するためにはどうしたらいいのか。いたって現実的な問題を前に、さりげなく架空の事物が紛れ込むのが著者の作品らしい。

影を失った男、見えないタワー、種から育てる隧道（ずいどう）…架空と現実が入り乱れ、人々の思惑が絡み合ううちに町が変わっていく様は、心地よい驚きに満ちている。

文芸春秋・1785円

* * *

お値打ち100本紹介

「おつまみワイン100本勝負」山本昭彦著

おつまみワイン
100本勝負
山本昭彦
このおかずには、このワイン！
朝日新書
創刊7周年

餃子にビール、おでんに日本酒…そんな定番の組み合わせもいいが、ぜひ試してほしいのが、ワインとの相性。

著者のおすすめは、餃子には南国果実のような香りのスペインの白ワイン、昆布だしのおでんにはフランス・ロワール地方の、トロリとした酸味とミネラル感がある白ワインという組み合わせだ。気どりのないおつまみ100品に合う、お値打ちのおうち飲みワイン100本を紹介する。

料理とワインの相性というと、ハードルが高く感じられるかもしれないが、一番のポイントは「色を合わせる」こと。焼き鳥でも、正肉なら白ワインが合うし、レバーには赤ワインを合わせたい。クリームコロッケには白ワインだが、ソースをかければ赤ワインとの接点が生まれるという。年間300本以上空ける著者ならではの経験と知識に裏打ちされたセレクト。食いしん坊の飲み助の頼もしい相棒として、手元に置いておきたい1冊だ。

朝日新書・756円

* * *

6人の体験談紹介

「20代でも給料以上稼げる不動産投資術」長岐隆弘&インベスターズギルド著

20代でも
給料以上稼げる
不動産投資術
長岐隆弘
&インベスターズギルド
29歳で資産1億超えも！

不動産投資といわれても、サラリーマンの「社畜」生活が当たり前の身にはピンとこない。マイホームでもない不動産のために借金するという感覚も、会社人間の常識からは外れている。しかし、世の中には20代にして副業で、給料より多くの収入を不動産投資で得ている人がいるという。その「ナゼ」を分かりやすく解説しているのが本書だ。

読み手にとってありがたいのは、20代で不動産投資に踏み出した6人の体験談が紹介されていること。それぞれ「借金は悪」という常識を乗り越え、ときには投資に失敗しながらも、会社からもらう月給以上の家賃収入を得るようになっていくストーリーは痛快。

さらに、6人の体験談から導き出した7つの成功法則も読み応えがある。20代の若さで上手にもうけている人がたくさんいる。世の中を知り尽くした経験豊かな世代が本気を出せば、成功の確率は高いのだろう。

扶桑社・1575円

価格は税込み

クロスワードパズル

第4723回 ●パズル制作/ニコリ

毎日2人にクオカード3000円が当たる

ヨコのカギ

1 古代エジプトの美人な女王
2 攻撃した側が脳しんとうを起こす危険性もある？
3 スタンドカラーやスリットが特徴。実は和製英語
4 冬場の服装はこうなりがち
7 腕にはめる
10 ―のよいさっぱりした酒
11 犬の散歩のときは、―を回収するための袋を一緒に持って出るんだ
13 選挙カーが候補者名を―している
14 鉄道―を作るのが趣味なんだ

タテのカギ

1 鉄―　―かご
3 いす。ロッキング―
5 貨物―　特急―
6 米―　雨―　―より
8 はるか―に船影が見える
9 長丁場だから、最初から飛ばすと―するぞ
11 経験不足で熟達してない
12 流行や動向。上昇―
14 リストの―を補う
15 胡蝶―　鈴―
16 この特急は、―作業のために次の駅で10分停車する
17 エリート―　フル―
18 ―のこ　―ようじ

懸賞問題 解き終わった盤面に「レ」の字はいくつあるでしょう？

1	5	8		12	15	■
2			■	13		17
■		■	11		■	
3		9			16	
	■	10		■		■
4	6		■	14		18
■	7					

●応募方法　はがきに答えと、あなたの住所、氏名、年齢、職業を書き〒100―8160 夕刊フジ営業局「第4723回夕刊フジパズル」係まで。来週水曜日必着のこと。正解と当選者は翌々週土曜日発行の夕刊フジ紙面で発表します。

新 病葉（わくらば）流れて

～白川道～

(738)

「俺は自分の顧客を儲けさせ
ようとした――」
一丸が淡々と話しはじめた。
復讐という過激な言葉がうその
ような静かな口調だった。
「客には、持ち株が上がって

ーを注ぎながら笑った。
「ある日、突然、辞令が出
た。九州の営業所に行け、だと
さ」
「それで、辞めたんですか
？」

イラスト・佐藤龍生

離れていっ
たよ。で
も、客のこ
とを恨んで
やしない
ぜ。信じな
くなったと
いうだけの
ことだ」
この街に
は信用でき
る人間なん

だろう。
ウィスキーをグビリと飲ん
で、一丸が言った。
「答えは見つけたよ。それな
ら、上がる株を予想して買うん
じゃなくて、買った株を上げり
ゃいいんだ、ってな。これな
ら、百発百中だろ？」
「つまり、仕手？」
「まあ、そんなところだ」
一丸がニヤリと笑った。
「おまえ、簡単に、仕手とい

呼び、勘定をするよう、告げ
た。私に、もう一軒つき合え、
と言う。
店を出ようとしたとき、店主
の飯田が厨房から顔を出した。
「店の奢りだと言ったのに」
「礼をしたいのなら、資金の
ほうをもっと出してください。
それが、私にとっての最大のお
礼ですから」
「分かりました。考えておき
ます」